聴覚障害のある学生の受講を想定した遠隔授業の対応について

【趣旨】

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、前期授業は遠隔（オンライン）によって行うことが基本となりました。遠隔授業において、聴覚障害のある学生にとっては特に配慮を要する点があります。

下記において、遠隔授業等において障害等に起因して生じやすい課題と対処法の案を提示することで、授業担当教員等が障害の有無にかかわらず適切に対応できることを目的とします。

聴覚障害のある学生が受講する授業では、下記の内容に基づき、合理的配慮の提供を行っていただければ幸いです。

【聞くことに困難を有する学生（聴覚障害）】

<遠隔授業で生じやすい課題>

パワーポイント等の視覚資料と講師の音声により進められる遠隔授業の場合、視覚資料に掲載されていない音声情報を取得することが難しくなります。また、遠隔授業では通信環境によって音割れ等の音質不良が発生する確率が高まるため、正確な聴取が難しい場合もあります。

<授業担当教員等の対応>

○オンデマンド配信：授業をビデオや音声ファイルに記録・配信する場合

- ① 講義資料はなるべく文字情報を多めにしてください。
- ② 動画教材には字幕を挿入してください^{※1}。
- ③ 動画への字幕挿入が難しい場合、あるいは音声ファイルのみを提供される場合は、音声情報に対応する文字（読み）原稿を対象学生もしくは障害学生支援室まで提供してください^{※2}。

※1 遠隔授業で使用する動画データへの字幕挿入には Microsoft Stream が活用できます。Microsoft Stream では動画をアップロードすることで自動的に字幕を作成する機能があります。ただし、自動生成した字幕（トランスクリプト）は正確でない場合も多くあります。その場合には、授

業担当教員の方で「トランスクリプト」を適切な用語に編集をお願いします。

- ※2 パワーポイント資料を使用される場合は、ノート（メモ）機能に読み原稿を記載してデータを提供する方法が利用できます。音声ファイルのみの場合には、テキストファイルや word ファイルで原稿を提供する方法が利用できます。

オンデマンド配信の場合には、教室における PC 要約筆記が不要と考えられますので、基本的には学生ノートテイカーの派遣は行いません。

○リアルタイム配信：同時双方向で授業をする場合

- ① 授業で使用する資料ならびに接続方法をあらかじめ対象学生ならびに障害学生支援室にお知らせください*。
- ② 障害のある学生から希望があり、コーディネート可能な場合は、遠隔情報支援を行うために学生ノートテイカーがオンラインで参加します。
- ③ PC 要約筆記の内容は、利用学生のみが iPad 等で確認します。
- ④ 参加する教員ならびに学生等は口元が見やすいようにマスクはつけないでください。
- ⑤ 遠隔授業の場合には音声の伝達にタイムラグが生じることがありますので、通常の授業よりもゆっくり・はっきりとお話しいただくようお願いいたします。

※ 専門用語が含まれる場合、正確な情報支援のために事前準備が必要となりますので、完成版でなくても可能な限り詳細な資料をご提供ください。

【引用資料】

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター（アクセシビリティ）,
「障害のある学生の受講を想定した遠隔授業の対応について」

<https://dac.tsukuba.ac.jp/shien/20200409-1/>（参照：2020-4-20）

Association on Higher Education And Disability（2018） Five ways simple ways to increase accessibility in distance education courses.

<https://www.ahead.org/about-ahead/about-overview/special-interest-groups/online-and-distance-learning>

DO-IT(2020)Resources for making distance learning accessible.

<https://www.washington.edu/doit/programs/accessdl/resources-making-distance-learning-accessible>